



冷漠中的

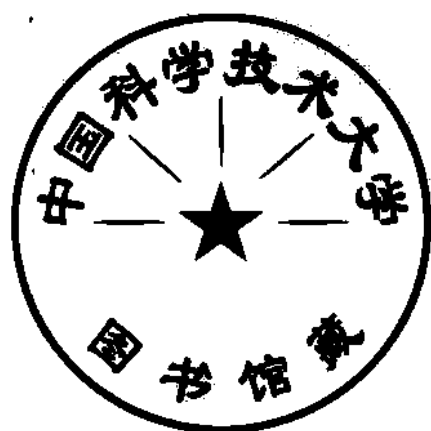
(日)德永直著 李思敬译注
日汉对照
上海译文出版社

日 汉 对 照

冷漠中的安息

[日]德 永 直 著

李 思 敬 译注



上海译文出版社

日 汉 对 照
冷漠中的安息
〔日〕德永直著
李思敬 译注

上海译文出版社出版、发行
上海延安中路 955 弄 14 号
全国新华书店经销
邕桥新华印刷厂印刷

开本 787×960 1/32 印张4:125 字数 64,000

1994 年 1 月第 1 版 1994 年 4 月第 1 次印刷

印数：0,001—2,000 册

ISBN7-5327-1319-9/H·259

定价：2.50 元

(沪)新登字 111 号

小 序

德永直是日本普罗作家中的佼佼者。本篇原名《彼岸》，写于 1936 年 7 月。

对于德永直和他的作品，佐多稻子曾经有过这样的评论：

“德永さんは、日本の今日の文学界の中で、独特の、自己の世界を持っている作家である。”“その持っている独特の質は、日本の今日の文学の中ではまだ数の少い、そして文学そのものの本質からは意味の深いものである。”“この小説集を読んで読者は、私の言う德永さんの独特の世界というものを、すぐ理解されるだろうと思う。”“「働く一家」や「他人の中」や「最初の記憶」や「彼岸」を読んで、以上の作品が、今日の日本の文学の、他では得られない感銘を与えるのに気づくことと思う。”（德永直小说集《はたらく一家》解说）

我没有读过多少日本文学作品，更谈不上研究、认识。但是《彼岸》这篇作品深深地感动了我，使我流泪，使我叹息，使我深思。在那样一个冷漠

的世界里，善老奶奶恐怕只有死才是她唯一的出路，因为人世间已没有她存身之地了。或许，早一天安息，对她说来就意味着早一天解脱。所以这次把1985年在《日语学习》上连载的译注集为单行本时，就把篇名改译为《冷漠中的安息》。不知道德永最初以《彼岸》命名，是否就蕴含着这层意思在内。

写小说就是要写出人情世态。所谓人情世态，并不是某些生活琐事的堆砌，而是一种社会的必然。本篇并没有什么离奇的情节，也没有什么惊天动地的大事。如果把其中每一个小片断抽取出来观察，似乎也都没有什么著之竹帛的价值。但是随着故事的开展，我们感受到一种任何出场人物都无法摆脱的、必然的、内在的生活逻辑，作品中的每一个人物都在这无情的生活逻辑的支配之下活动、表现、挣扎。当作家把这无情的生活逻辑提炼出来，并且给以艺术的再现，便成为“个个心中有，人人笔下无”的刻画世态人情的佳作。这种作品，在近现代日本小说中恐怕是不多的。德永直所以被佐多稻子称为“具有自己独特世界的作家”，我想，其原因就在这里。读过许多所谓“推理小说”的青年朋友，在走出被那些偶然而又偶然的人为的逻辑所编织的虚幻的梦境之后，再来体味一下德永直笔下真实而严酷的生活逻辑，我想

定然会有许多不同的感触。

当人们进入一个陌生的世界，如果只是考察一下它的外部表现，而不是作为那个世界的一员深入到生活中去，总不免会发表一些皮相之见——无论是赞扬它还是贬损它。而一篇真正反映了世态人情的作品，则能给人以真实的，甚至是丝毫不差的本质性的认识。这是因为，作家的笔从那个世界的深部写出来，从而把读者引入那个世界的深部去，使读者仿佛也成为在那个世界中生活的一员的缘故。这就叫艺术的真实。

本篇反映的是 30 年代早期日本下层市民生活的一个侧面。虽然只写了社会的一个小小的角落，但是却使我们鲜明地感受到私有制社会中人与人之间最本质的关系——即使是骨肉之亲，其深层依然是以金钱关系为核心的利害关系。而且，这种认识是活生生的，而不是空洞的，说教式的。这就是艺术的力量。

德永直的语言是口语化的文学语言，有时还运用一些方言成分来突出人物的乡土气。为了体现作家的语言特色，翻译时尽量运用口语，同时也适当用一点方言加以点染。但是总觉得力不从心。这当然主要是因为笔者的日语水平不够，同时也反映着“等值再现”的困难。为了适应口语的要求，有时也揉合一些说评书中“人物赞”的表现

手法。比如中泽这个人物的出场，德永直是这样描写的：

“半月ばかり経って、田舎廻りの商売から中沢が戻って来た。ゲートルに地下足袋穿きの小柄な男で、眼玉の大きい尻上りの声を出す、向うッ張りの強い東北風の商人であった。”

这段人物描写，翻译时就按说书的习惯表现手法译为：

“过了半个来月，走村串店做买卖的中泽回来了。个儿不高，大眼，扎着腿，穿着水袜子，说话后音儿高，是个挺冲的东北派头的买卖人。”

这种译法是否能使人物内在外在的特质表现得更鲜明，则尚有待于读者的评判。

译注这篇小说曾蒙尚永清先生、文洁若女士和日本长岛阳子女士赐教，不胜感激。

下边就让我们随着故事的开展，进入日本 30 年代那冷漠的世界，感受一下善老奶奶那不幸的一生和她周围形形色色的冷漠的众生相，从而体味一下这些人物背后那无情的生活逻辑。

李思敬

1991.8.15.于北京·香河园九重斋

冷 漠 中 的 安 息

^ひ
(彼 ^{がん} 岸)

—

ヨシ婆さんは毎朝、低い軒庇からチロチロ
と陽がのぞく格子窓の傍で、つくねんと坐って
いた。¹ 盲縞木綿の鉄砲袖を前の方で掻き合せ
るようにして²、トンボのように小さく束ねた³
白髪頭髪をジッと俯むけている。二時間でも
二時間でも、だれかが声でもかけねば、一ン日
でも⁴ そんな姿勢でいた⁵。皺でたるんだ⁶ 眼瞼
は垂れさがって⁷ 黝ずんだ⁸ 唇はあいたまま⁹、
延びすぎた¹⁰ 二本の犬歯がつっぱっているため
に、缺けた前歯のところは黒い穴になって見え
た¹¹。

そんなときヨシ婆さんはウツラウツラ¹² 眠っ
てる¹³ こともあった¹⁴ が、それも¹⁵ ホンの僅か¹⁶
の間であった。不断に右腕が神経痛のために

1. [ヨシ婆さんは…坐っていた]直译：善老奶奶每天早上 呆呆地坐在从矮檐下照上一点阳光的格子窗边。チロチロと：光线一闪一闪的样子。つくねんと：呆然。 2. [盲縞木綿…にして]盲縞木綿：藏青色棉布。鉄砲袖：窄袖管。で：在。掻き合せるようにして：拉在一起的样子。…にして：“…にする”的连接式。 3. [トンボのように小さく束ねた]像蜻蜓般地扎得小小的。修饰“白髪頭髪(白色的头发)”。 4. [二時間でも…一ン日でも]即使。でも在这里强调时间之长。“三時間でも”“一ン日でも”都是这个意思。“一ン日”即“いちにち”(一

格子窗上闪现出从矮檐下透进来的阳光。善老奶奶每天早上呆坐在窗边。她把蓝布窄袖管拥在胸前，一动不动地低垂着满头白发。头上梳着个小纂，似乎是只蜻蜓。她一坐就是两三个钟头，假使没人喊她，甚至整整一天就那么坐着。褶皱松弛的眼皮垂了下来，张着黝黑的嘴唇，支着两颗过长的犬齿，缺了门牙那地方看上去就像开了个黑洞。

她有时坐着坐着就迷迷糊糊地瞌睡起来，不过也就是一会儿的工夫。因为右臂不断地神经

日)，ち和に 约音 成ちん。 5. [そんな姿勢でいた] で：格助词，用(那样的姿式)。いた：いる(存在)的过去时。
6. [皺でたるんだ] 由于起褶而松弛的。修饰“眼瞼”。で：格助词，因为。たるんだ：たるむ(松弛)的过去时。 7. [垂れさがって] 垂れさがる(下垂)的连接式。 8. [黝ずんだ] 黝ずむ(发黑)的过去时。 9. [あいたまま] 保持张开的样子。あいた：あく(张开)的过去时。まま：原样不变。 10. [延びすぎた] 延びすぎる(过分地长)的过去时。 11. [...見えた] 看起来像…。 12. [ウツラウツラ] 朦胧，似睡非睡的样子。 13. [てる] ている的约音。 14. [そんなとき…こともあった] そんなとき：那种时候。指上文描述的在屋檐下坐着的时候。…こともあった：有时也…。译文把两者揉在一起，译为：(她)有时坐着坐着就…。 15. [それも] 那也不过…。それ：指上述打盹儿的情况。 16. [ホンの僅か] 稍许，很小的一点儿。

うず 疼いているし、何^{なに}よりも¹この工場^{こうじょう}長屋^{ながや}は太^ひ陽^ひのめがささず²、腰^{こし}が冷^ひえてきて³いくら湯水^{ゆみず}を呑^のまぬ⁴ように気^きをつけても⁵、すぐ小便^{しょうべん}を催^{もよお}してくる⁶のだった。

なが もと 流^{なが}し元^{もと}で⁷、もう産月^{うみづき}ちかいお腹^{なか}を反^そっくらせ⁸ながら、茶腕^{ちawan}を洗^{あら}っている孫娘^{まごむすめ}のユキが、先刻^{せんこく}、裏口^{うらぐち}の吹きさらしに⁹煉炭^{れんたん}に火^ひをいれてくれた¹⁰が、まだ浅黄^{あさぎいろ}色のキナくさい煙^{けむ}りをたてていて、それが真^まッ赤^かになって室^{へや}の中^{なか}へ抱^{かか}えこんでくれるまでには¹¹大分^{だいぶん}時間^{じかん}があつた。凹^{くぼ}んだ畳^{たたみ}の隙^すきめや、室^{へや}の隅^{すみ}などから風^{かせ}がゾクゾク¹²忍^{しの}びこんでくるが、相変^{あいかわ}らずヨシ婆^{ばあ}さんはやわらか¹³えがお¹⁴笑顔^{うちぶところ}をうかべて、ときどき内懐中^{うちぶところ}から¹⁵ひだりて¹⁶左手^{ひだりて}をまわし痛^{いた}む腕^{うで}をおさえていた。しかしヨシ婆^{ばあ}さんの左腕^{ひだりうで}も若^{わか}い頃^{ころ}からの無理^{むり}働^{ばたら}きのせいか¹⁷充^{じゅう}分^{ぶん}にはとどかないので¹⁸、永^{なが}いこととかかりながら¹⁹呟^{つぶや}くように「なむあみだ、なむあみだ²⁰」と稱^{とな}えていた。

1. [何よりも] 尤其，最，更加。 2. [太陽のめがささず] 阳光照不到。太陽のめ：即“日のめ(阳光)”。が：主格助词。ささず：さす(照射)的否定。ず：文语否定助动词，等于ない。 3. [腰が冷えてきて] 腰觉得凉上来。冷えて：冷える(觉得凉)的连接式。きて：くる(来)的连接式。くる在此作补助动词，与上边的て接合，表示“…起来”。 4. [ぬ] 文语否定助动词，等于ない。 5. [ても] 与上文いくら呼应，表示“即使…也…”的意思。 6.

痛,尤其是工厂里的长排房见不着太阳,所以下半身凉起来,马上就感到有尿憋着似的。任凭怎么在意着不喝水也不行。

外孙女雪儿眼看要临产,挺着大肚子在洗碗池上洗碗。她刚才在后门外替姥姥生上蜂窝煤火盆,这时候还在冒着淡青色带煤气味儿的烟。等到红透了给她端到屋里去,还得好一会儿工夫。风从塌陷的铺席缝里,从屋角上,嗖嗖地直往里灌,然而善老奶奶照例带着温和的笑容,左手不时地褪进怀里掏过去摁右胳膊。不过大约因为她从年轻的时候起就劳累过度,左胳膊也难以伸到。她够了老半天,嘴里还念诵着:“南无阿弥陀佛!南无阿弥陀佛!”

[催してくる]感到要…起来。催して:催す(觉得要…)的连接式。くる:作补助动词,见注3。 7.[流し元で]流し元:洗槽。で:在。 8.[反っくらせ]向前弯曲。そっくりかえる(把身向后仰)变使役态そっくりかえらせる。在口语中说快了就成了そっくらせる。そっくらせ是它的连用形。 9.[吹きさらしに]在露天里。吹きさらし:不蔽风雨的地方。に:在。 10.[煉炭に火をいれてくれた](替姥姥)给蜂窝煤点上火。に:在。火をいれる:生火。くれた:くれる的过去时。在此作补助动词用,接て下表示“给(我)”。这里用てくれる,表示站在姥姥的立场讲话。 11.[までには]までに:到(…的时候)。に在此表示限定性的时点。は:表示提示。 12.[内懷中から]意思是把手从袖子里褪进怀里。 13.[…のせい]可能是因为…。せい:缘故。か:表示不定、可能。 14.[充分にはとどかないので]因为短,而不能轻易地够到。は:提示助词,引起下文否定语气。とどかない:手够不着。ので:因为。 15.[永いことかかりながら]长时间地够。ながら在此无义,かかりながら等于かかって。

ちかごろ ひあし さいしよ やね
近頃は陽脚がみじかくて、最初トタン屋根の
ひさしなな すこ ばあ
庇斜めから少しずつこぼれ¹、ヨシ婆さんの
しぶがみいろ すこ て
渋紙色のおでこを少しばかり²照らすと、もう
ひさし なかほど むこ やね すべ お
すぐ庇の中程から向う屋根に迂り落ちてしま
うのだった³。

ばあ ひまわり
「お婆ッあんは、まるで向日葵みたいす⁴。」
あさ あとかたづけ おわ まごむすめ ないしよく
朝の跡片付⁵が終ると孫娘のユキは、内職⁶
あみもの し こと こと
の編物仕事にかかると、いつもの如く⁸お
婆さんの頭髮^{かみ}を取りあげてやりながら⁹、田舎
こと ば
言葉でからかった¹⁰。すると耳も遠くなってい
るヨシ婆さんは、やっと「なしてや？」と訊きか
えした¹¹。

「だって、おめえのおでこはお太陽さまと一
しよ
緒にうごいてるのすべ」¹²

くし いきお
ガクンガクンと¹³、櫛の勢いにひきあおのけ
られながら、¹⁴ユキが笑えば自分も黒い歯莖を
わら じぶん くろ はぐき
だして笑うのである。ヨシ婆さんはたしかに太
わら ばあ たい
陽に¹⁵敏感であるが、わずかずつ¹⁶陽脚と一緒
よう びんかん ひあし いっしよ
におでこを仰おのけながら、ボンヤリ向い屋根
むか やね

1. [屋根の庇斜めからすこしずつこぼれ]从房檐的侧面一点点地照过来。すこしずつ:一点点地。こぼれ:こぼれる(洒落)的连用形。 2. [少しばかり]刚一点点。 3. [...のだった]“...のだ”的过去时。谓语补助成分,表示“是那么一种状况”的意思。 4. [...みたいす]みたい:像...似的。す:方音,相当です。 5. [朝の跡片付]早晨起来以后收拾内外,归置东西。 6. [内職]副业。 7. [...にかかる]着手干...。

近来天短，起初阳光从铁皮顶的屋檐下一点点斜照过来，刚照在善老奶奶棕色的前额上，马上就从屋檐的半腰处溜到对面屋顶上去了。

“姥姥活像棵向日葵哎！”

早上，外孙女雪儿把里外归置完，在动手织手工活儿之前，照往常一样，一边给姥姥梳头，就操着家乡口音打趣。善老奶奶耳聋，好半晌才问道：“咋呢？”

“您脑门儿跟日头一块儿转呗！”

雪儿一笑，善老奶奶也露出一副黑牙床笑了。脑袋随着梳子的牵动一起一落。

善老奶奶确乎对太阳很敏感。不过，她在迎着阳光一点点仰起头，呆望着从对面屋顶上探出来的电线杆，为的是等候从清晨起一直还没出现

8. [いつもの如く] 一如往常。いつも：平时。…の如く：与…一样。 9. [頭髮をとりあげてやりながら] 直译：把头发给抓起来。とりあげる：拿起来。这里指帮助梳理头发。…てやり：…てやる(给…)的连用形。 10. [からかった] からかう(开玩笑、嘲弄)的过去时。 11. [やっと「なしてや？」と訊きかえした] やっと：好不容易。なしてや：方言，相当“どうしてですか？”。や等于か。訊きかえした：訊きかえす(反问)的过去时。 12. [だって…のすべ] だって：接前边的话，表示申述理由。おめえ：おまえ(你)的方音。おでこ：前额。お太陽さま：即“お天道さま”(太阳)。うごいてる：即うごいている。…のすべ：方言，相当“…のですよ”。のは形式体言。 13. [ガクンガクンと] 一上一下地摇动的样子。 14. 櫛の勢いにひきあおのけられながら] 被梳子的劲头儿所牵动而仰起。勢いに：主动者。ひきあおのけられる：由ひく(牵引)和あおのける(仰起)复合而成ひきあおのける，再变被动式。 15. [に] 对于。 16. [わずかずつ] 一点一点的。

からツン^で出ている電柱^{でんちゅう}をすかし¹ているのは、
今朝^{けさ}はまだ見えない雀^{すずめ}の姿^{すがた}を待つ^まてるからで
あった。ちょんちょんと電柱^{でんちゅう}の上^{うえ}に躍^{おど}ってい
る二三羽^{にさんば}の雀^{すずめ}が、胸毛^{むなけ}をふくらまして囀^{さえず}るの
を聴^きくと、お婆^{ばあ}さんはその一^{いち}日^ちが救^{すく}われる気^き
がした²。

「……雀^{すずめ}はおめえ³、お釈迦^{しゃか}さまが成佛^{じょうぶつ}な
さるとき、一等^{いっとう}さきに⁴駈^かけつけた忠義^{ちゅうぎ}者^{もの}ッ
しゃ⁵。んだから⁶お釈迦^{しゃか}さまがおめえは虫^{むし}け
らなぞ喰^くわんでいい⁷、米^{こめ}を喰^くえ⁸とお授^{さづ}けに
な⁹った鳥^{とり}だ¹⁰では¹¹。そんなとき¹²お化粧^{けしょう}し
たり、無精^{ぶしょう}したりして間^まに合^あわなかつた燕^{つばめ}と
か、鶴^{せきれい}鴒^{せい}とかいう¹³鳥^{とり}は虫^{むし}けらばかり喰^くうよう
にな¹⁴ったのッしゃ——」

ヨシ婆^{ばあ}さんは、もう亭主^{ていしゅ}のある孫娘^{まごむすめ}に今^{いま}で
もその話^{はなし}をする。それは非^ひ常^{じょう}な確信^{かくしん}をもつて
いて¹⁴、ユキが笑^{わら}い出^だしたりすると¹⁵、口^{くち}をすば
めて黙^{だま}りき¹⁶つていた。しかし彼女^{かのじょ}のうすくな
った眼^めにも、東京^{とうきょう}の雀^{すずめ}は黒^{くろ}く煤^{すす}けているよう
で¹⁷、故郷^{こきょう}でみるあんな焦茶色^{こげちいろ}で胸毛^{むなけ}が白^{しろ}く肥^{ふと}

1. [向い屋根からツン出ている電柱をすかす]迎着光线看从对面屋顶上露出头儿来的电线杆。ツン出る:突き出る(突出来)。すかす:迎着光看。 2. [一^{いち}日^ちが…気がした]感到一天都

的麻雀。老奶奶一旦听见两三只麻雀在电线杆横木上跳跳跼跼，抖弄着胸毛啾啾地叫，就觉得这一天算是得救了。

“你知道不？如来成佛的时候，家雀子是头一个赶到的忠义鸟儿。如来就封它：你呀，甬吃虫儿啦，吃米吧！当日，那燕子、鹊鸽子梳洗打扮拖拖沓沓，没赶上，就光吃虫儿了。”

善老奶奶到现在还跟已经出了阁的外孙女讲这些。她是那样地深信不疑。倘使雪儿发笑，她就把嘴一努，再不吱声。只是，在她那昏花的眼里，总觉得东京的麻雀像烟熏也似地黑，远不是家

得救了。一ノ日：即いちにち。救われる：すくう的被动形。…気がする：感到。3. [おめえ]即おまえ(你)的方音。这里插在主语“雀”后边，表示补充称呼对方的意思。4. [一等さきに]最早，头一个儿。5. [ッしゃ]方言。等于だ。6. [んだから]等于それだから(因此)。7. [虫けらなぞ喰わんでいい]不必吃虫子之类了。なぞ：等于など。喰わん：“喰う”的否定形，等于“喰わない”。…でいい：(不…)也行。8. [喰え]“喰う”的命令形。9. […とお授けになった]传授，教给，告诉。と：称谓格助词。授け：授ける的连用形。…になった：成为…。10. [鳥だ]是以上所说的这句话的谓语。主语是最前边的“雀は”。中间虽然用“・”隔开，实际上是一句话。全句结构是“雀は(おめえ)…鳥だ”。中间除插入のおめえ外，全是说明“鳥”的。11. [でば]方言。だでば的语气是だよ或だから。12. [そのとき]即そのとき。13. [とかいう]…之类的。とか是与上边的とか并列的助词。这里的と兼起称谓格助词的作用，与下边的いう结合成という。14. [確信をもっていて]具有信心。もっていて：もつ(持つ)的存续态もっている的连接式。15. […たりすると]一旦…。只用一个たり(后接する)表示举例。16. [黙りきる]默然不语。きっ是きるの连用形促音变。17. [で]だ的中顿形。

った^{すずめ}雀はいないように^{おも}思われた¹。

この^{まごむすめふうふ}孫娘夫婦のところへ^ひ引きとられてから²
^{さんねん}三年になるが、^{ばあ}婆さんは^{すこ}少しも³この^{ながやまち}長屋町に⁴
^{なじ}馴染むことができなかった。^{あさ}朝、^{ひる}昼、^{ばん}晩、ビッ
クリするよう⁵な^{こうじょう}工場の^{きてき}汽笛が、^{あたま}頭の上で^{うえ}鳴
り^わ喚めくと、いまでも⁶そのたんびに⁷キョト
キョトする。^{かぜ}風がある日は^ひ煤煙がどこからとも
なく⁸舞いこんできて、そっと^{ひざ}膝を^な撫でてザラ
ザラとわかったし、^{あめ}雨の日は^ひ長屋じゅうのどこ
も^{こども}子供の^{なきこえ}泣声や^{さけ}叫び声^{こえ}がひびいて、ときには仕
事^{ごと}にあぶれて^よ酔っぱらった¹⁰親爺達^{おやじたち}が、^{せま}狭い
路地^{ろじ}を^{おおこえ}大声あげながら^{まどこうし}窓格子にぶっつかってゆ
くし¹¹、^{さらこばち}皿小鉢の割れる音、^わお^{おと}内儀さんの^{かみ}喚め
き^{こえ}声など、いちんちつづくこともあって¹²、ま
るで^{ふね}舟の^{なか}中にでも¹³つめられて^ゆ揺すぶられてい
るような^お落ちつきなさであった¹⁴。

それに^{となりきんじよ}隣近所の^{ひとたち}人達の^{はだあい}肌合が、^{いなか}田舎の^{にんげん}人間
達^{たち}とは¹⁵まるで^{ちが}違っていた。言葉^{ことば}もさまざまだ
し¹⁶、^{じんき}人氣が^{あら}荒っぽくて¹⁷寄りつけ^よない¹⁸気がし

1. [東京の雀…思われた]这句话前半句说的是东京的麻雀 是什么样的、主语是“雀”，谓语是“ように”。后半句实际上已经改变了主语，实际上是“東京では、故郷でみる…雀はいない”(在东京没有家乡见到的那种…的麻雀)。いない：没有。译文没有按比直译。…ように思われる：总觉得…。 2. [引きとられてから]被接来以后。引きとられ：引きとられる(被收养)的连用形。…てから：…以后。

3. [少しも…(ない)]一点也(不…)。 4. [に]对于。…に馴染む：对…适应。 5. [ビ